

環境に優しいカーボンニュートラル型農業の推進

— ICTを活用した持続可能な農業で地域活性化 —

まれっふ

稀府農業研修センター(伊達市)



【ICTを活用した研修センターの外観】

【施設等の概要】

- 名称: 稀府農業研修センター
- 所在地: 北海道伊達市中稀府町85番地
- 栽培品目: ミニトマト、ミニパプリカ、ミニキュウリ等
- 問合せ: 0142-82-3201
(伊達市経済環境部農務課農政係)

【取組の経緯と概要】

- 全道平均を上回る顕著な高齢化と、担い手不足に起因した農業者の減少による地域農業の衰退が喫緊の課題。
- 新規就農を促進すべく、環境に配慮し、伊達市の気候に適した先進的スマート農業(ICTを活用した省力化・高品質生産を実現する新たな農業)の魅力ある営農モデルを構築。
- 令和4年4月、地域農業の持続的発展と地域活性化を目的とし、地域資源活用型農業推進計画を策定。

- 令和5年3月、化石燃料を使用しない熱源システム(地元資源の木質ペレットボイラーと、補助熱源のヒートポンプ)を採用した、カーボンニュートラルを実現する稀府農業研修センターが完成。



【木質ペレット】



【ヒートポンプ】

- 現在、連棟型プラスチックフィルムハウス3区画(3,024㎡)において、運営受託事業者による周年栽培の営農を実証中。

【課題と対応】



【セミクローズド型ハウスの内部】



【プロファーム】

- 従来型のビニールハウスは天窓を開放しても外気状況によっては十分な換気ができず、ハウス中央部の気温が上昇しやすいことが課題。
→常にハウス内の気流を作り、熱のこもりの緩和や湿度ムラを抑えるため、天窓を廃止したセミクローズド型強制換気(自動車の空調技術を応用)ハウスを採用。
- 研修センターを整備するにあたり、温度管理などの経験に基づく感覚的な栽培技術を、判断基準や根拠を明確化し納得できる形で新規就農者へ継承することが課題。
→プロファーム(環境制御機器)を導入し、環境制御をシステム化することで栽培技術の見える化(データ化)を実証。

【今後の計画】

- 令和6年度末までの2年間の実証により、安定的な農業経営や栽培しやすい品目・品種を見極め、令和7年からの研修生受入を目指す。
- 消費者が商品を購入する際、二次元コードで栽培工程の動画等を視聴できるようにするなど、安心・安全・環境への配慮が見える化し、他農産物との差別化を図る。
- ICT機器活用により栽培環境や作業管理といった情報をデータ化していく。また、そのデータに基づいた定量的指導で、地域農業の担い手となる人材を育成する。